

発行者の 番号・略号	教科書の 記号・番号	教科書名
50 大修館	家庭 038	あす ひら 明日を拓く 高校家庭総合 代表著作者 中間美砂子

## 1 教科書編修の基本方針

男女共同参画社会，少子高齢社会といわれる中で生きる高校生が，現在およびこれからの生活課題を解決するに当たって，家庭科を主体的に学ぼうとする意欲がもてるように，家庭科で育成したい能力，学ぶ内容，学ぶ方法などが把握しやすい内容構成としました。

自己実現をめざして，自分らしい生活を主体的に創造するために，自らの生活観を確立し，自立できる力を育成するためにはどうすればよいかを考えさせることを基本方針としました。

男女がともに理解し合い，協力し合って，これからの家庭や社会を築くことをめざしました。

子どもや高齢者，障害をもつ人々と家族や地域社会の人々とのかかわりや福祉について考え，ともに生きる生活の重要性に気づき，実践することをめざしました。

生活的に自立するために必要な基礎的な知識・技術の習得をめざすとともに，生活文化を創造するために必要な衣食住に関する生活文化について学べるようにしました。

消費生活を送るうえで，責任ある生活者として，家庭・社会の中でどう考え，行動したらよいかを学び，実践することをめざしました。

持続可能な社会をめざして，地球規模での環境保全と生活のかかわりについて考えることをめざしました。

自ら生活課題をみだし，主体的に解決する学習方法を重視しました。

## 2 編修上の留意点・特色

生徒が主体的に学習できる工夫をしました。

自分自身で学習計画を立てられるように，各項目のはじめに，学習の手がかりになる学習のねらいを示しました。

生活課題を自分自身の問題として考えられるよう，各項目の記述に当たっては，「あなたは」という呼びかけ型で始めるようにしました。

主体的に学習するために便利なように，学習資料として，最適な図表等の資料や用語解説，側注，Follow Up，参照ページなどを設けました。

発展的学習を期待して，各項目ごとに実習課題を，各章の巻末には，「まとめ」を設けました。

3 教科書内容の組織・配列と学習指導要領との関連

教科書の内容構成	学習指導要領の内容	教科書の内容構成	学習指導要領の内容
家庭科を学ぶ あなたへのメッセージ			(4)生活の科学と文化
<b>第1章 人生をみつめる</b>	(1)人の一生と家族・家庭	<b>第5章 食生活を営む</b>	ア 食生活の科学と文化
1 今あるあなた	ア 人の一生と発達課題	1 食生活にひそむ問題	
2 あなたがめざす自己実現		2 食生活の成り立ち	
3 青年期にいるあなたの課題		3 体に必要な栄養素	
4 さまざまな家族	イ 家族・家庭と社会	4 炭水化物とそれを多く含む食品	
5 家族の人間関係と家庭に起こる問題		5 脂質とそれを多く含む食品	
6 家庭の役割とバランスのとれた生活		6 たんぱく質とそれを多く含む食品	
7 家族に関する法律の変遷とその実態		7 無機質とそれを多く含む食品	
8 男女共同参画社会の実現をめざして		8 ビタミンとそれを多く含む食品	
9 とともに支え合う社会の創造		9 その他の食品	
10 家庭生活と社会保障・社会福祉		10 食品の選択と取り扱い	
<b>第2章 資源をいかす</b>	(5)消費生活と資源・環境	11 食品の衛生と安全	
1 あなたの資源とライフスタイル	ア 消費行動と意思決定	12 生活に必要な栄養と食事の量の関係	
2 よりよい生活をつくる意思決定		13 家族の食事計画	
3 生活情報の活用と情報管理の重要性		14 調理の目的	
4 複雑化、多様化する現代の消費生活	ウ 消費者の権利と責任	15 調理の方法	
5 複雑化、多様化する消費者問題の現状		調理実習	
6 契約の意味と契約上の問題の解決方法		16 豊かな食生活を求めて	
7 消費者信用の利用と実態		<b>第6章 衣生活を営む</b>	イ 衣生活の科学と文化
8 消費者政策と消費者の権利と責任	イ 家庭の経済生活	1 人が被服を着る理由	
9 家計の現状と社会とのかかわり		2 被服材料の種類と性能	
10 将来を考えた経済計画と家計管理	エ 消費行動と資源・環境	3 衣生活の計画	
11 環境に調和した生活の実践		4 洗濯の目的と方法	
12 持続可能な社会をめざして		5 気持ちよく着る工夫	
<b>第3章 子どもを育てる</b>	(2)子どもの発達と保育・福祉	6 安全な衣生活のために	
1 子どもとのふれあいから学ぶこと	ア 子どもの発達	7 自分らしさの表現	
2 子どもの誕生		8 人の体と被服の形	
3 乳児期の豊かな成長・発達		9 被服製作の基礎	
4 幼児期・児童期の豊かな成長・発達		被服実習	
5 子どもの生活と保育		10 多様化する衣生活	
6 子どもの遊び	イ 親の役割と保育	11 衣生活から考える資源・環境問題	
7 子どもの健康と安全		<b>第7章 住生活を営む</b>	ウ 住生活の科学と文化
8 親になること		1 住居の成り立ちと住生活の変遷	
9 家庭保育・集団保育と子育て支援	ウ 子どもの福祉	2 現代の住生活と住宅政策	
10 子どもの権利と福祉		3 健康で快適な住居と住まいかた	
11 これからの子育て		4 安全に配慮した住居と住まいかた	
<b>第4章 高齢者と生きる</b>	(3)高齢者の生活と福祉	5 住居の管理と地域社会とつながった住まいかた	
1 高齢期と加齢にともなう心身の変化	ア 高齢者の心身の特徴と生活	6 住む人の生活に合った住空間	
2 高齢期の生活と家族・社会とのつながり		7 住空間の計画にむけて	
3 高齢期の生活設計と課題		8 住みよい住空間の計画	
4 高齢期の豊かな過ごしかた	イ 高齢者の福祉	9 人や環境と共存する生活	
5 人口の高齢化と高齢者福祉		10 だれもが暮らしやすいまちづくりの実現	
6 介護の必要な高齢者への支援	ウ 高齢者の介護の基礎	<b>第8章 生活文化をみつめる</b>	エ 生活文化の伝承と創造
7 介護に対する考えかたと心がまえ		1 生活文化の背景と科学技術	
8 介助を通じた高齢者とのふれあい		2 生活文化の創造	
9 充実した高齢期を送るために	イ 高齢者の福祉	<b>第9章 生活をつくる</b>	(1)人の一生と家族・家庭
		1 ライフスタイルの選択	ウ 生活設計
		2 ライフコースの選択と生活設計	
		3 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	(6)ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動
		4 未来の生活の創造	(1)人の一生と家族・家庭
			ウ 生活設計